

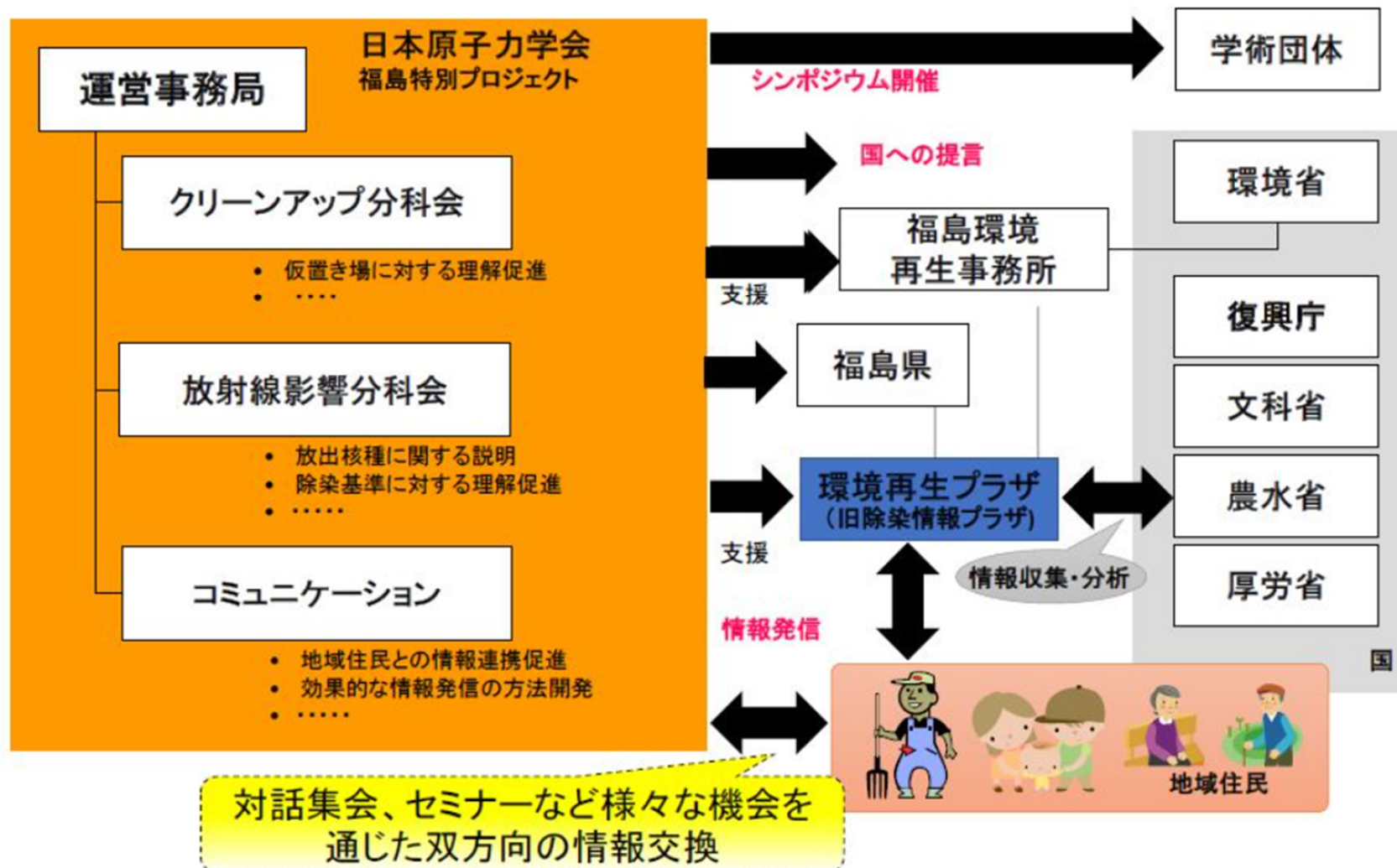
# 日本原子力学会 「福島特別プロジェクト」の活動

---

○飯本 武志<sup>1,2</sup> 藤田 玲子<sup>1,3</sup> 三倉 通孝<sup>1,4</sup>

<sup>1</sup>日本原子力学会福島特別プロジェクト

<sup>2</sup>東大、<sup>3</sup>東工大、<sup>4</sup>東芝ESS



日本原子力学会は、東京電力福島第一原子力発電所の未曾有の事故による原子力災害の修復にあたり、現地の視点に立ち学会の総力を結集して臨むために、理事会直結の組織として「福島特別プロジェクト」を創設しました。本プロジェクトは、地元にとって切実かつ喫緊の課題である周辺環境の除染作業のサポートや放射線影響に関する分析・助言など現地における活動を中心としつつ、事故炉に関する中長期対策などについて、関連する部会、専門委員会等の学術的な知見も最大限に活用し地元に取り有益な情報を分かりやすく発信するなど、地元役に立つ活動を幅広く実施することを目指すものです。

# 日本原子力学会 福島特別プロジェクト

| 期間                      | 代表   | 副代表                 | 幹事   |
|-------------------------|------|---------------------|------|
| 2012.06<br>～<br>2014.08 | 田中知  | 飯本武志<br>井上正<br>藤田玲子 |      |
| 2014.08<br>～<br>2019.03 | 井上正  | 服部隆利<br>藤田玲子        | 布目礼子 |
| 2019.04<br>～<br>2021.03 | 藤田玲子 | 服部隆利<br>三倉通孝        | 布目礼子 |
| 2021.04<br>～<br>2022.05 | 藤田玲子 | 飯本武志<br>三倉通孝        | 布目礼子 |
| 2022.06<br>～            | 藤田玲子 | 飯本武志<br>三倉通孝        | 寺阪裕太 |

(現在)

代表 藤田玲子 (東工大)

副代表 飯本武志 (東大)

副代表 三倉通孝 (東芝ESS)

幹事 寺阪祐太 (JAEA)

委員

渥美寿雄、池田伸夫、井上正、  
大井川宏之、太田宏、後藤正治、  
佐賀井美都、布目礼子、  
田中隆則、田中治邦、平岡英治、  
藤井靖彦、八塩晶子、山下祐司

# 活動の概要（1） 報文・記事等

---

- 除染・帰還・復興に関する見解（2016 年8月25日）
- 福島特別プロジェクトの活動と今後の展開 特集（2014年3月号）
- 福島復興・再生に向けて―震災後9年を振り返る― 報告（2020年8月号）
- 福島復興支援策に関するアンケート調査 報告書（2023 年）

国の事業による地域活性化の効果を明らかにし、福島の住民が本当に必要としている支援と国の施策にはかい離はないのか、住民が国に対して求めるものは何なのか、どのような地域にしていきたいのかを把握することを目的としたアンケート調査

- （1）調査方法：インターネットアンケート
- （2）調査対象者：福島県浜通りの市町村（94％）他の住民
- （3）調査期間：2021年5月25日～28日
- （4）回答者数：441名

# 福島復興支援策に関するアンケート調査 報告書（2023 年）

## 浜通り地域が目指すべき将来像

- 若年層の定住化を図り子育てしやすい環境づくりに力を入れてほしい。
- 小さな子ども達が成長して大人になっても住みたい街作りを目指してほしい。
- 型通りの街ではなく、地域の特性を活かして今までの産業だけでなく新たな企業誘致や自然を生かした観光産業を行なって欲しい。
- 浜通りは一番安全だという 風評を目指そう！
- 人が安全、安心して生活できる地域にならないと。
- 事故前から住んでいる人と、事故後に移住や仕事で訪れた人の交流から新しい産業が創出されるとよい。
- 廃炉を通じて、世界を代表するようなテクノロジーのモデル都市になって欲しい。

## 福島復興全体に関する要望等

- 風評被害を払拭してほしい。（多数あり）
  - 福島は安全と、もっと発信して欲しい。
  - 廃炉事業だけではなく 幅広い分野の雇用の創出。
  - 原発の廃炉だけでなく、新しい産業が産まれるような仕組みや仕掛けが必要。
  - 今後は福島県の復興状況をどんどん発信し、いい意味で魅力的な部分を知ってもらえるようにしていけたらいいと思う。
- 福島の将来に対して、若年層が定住し、安全・安心な生活基盤を持ち、新たな産業が創出されるような地域を目指したいという前向きな意見がある。
- 国の施策について、その効果を住民がもっと実感でき、安心して生活できるように進めていくことが必要ではないか。

# 福島復興支援策に関するアンケート調査 報告書（2023 年）

また、調査結果から提起された問題としては以下がある。

- **生活に重要なテーマ**として「帰還、移住対策」を選択する回答者が少ないことについて、回答者の多くがいわき市在住で、帰還困難区域からの避難者もすでにいわき市定住されており、帰還を希望されている住民が少ないのではないかな。

⇒帰還を増やすにはどのような施策があるかな？

- **再生加速化交付金**は、生活環境整備を促進することにより帰還を進めることも一つの目的としており、認知度はそれほど低くはないが、認知している回答者の回答が「帰還、移住対策」に効果を大きくは感じていないという結果となっているのは、支援策が住民の期待とうまくマッチしていないのではないかな。

⇒支援策と期待がマッチするにはどうしたら良いかな？

- **特定復興再生拠点区域復興再生計画**も、これまでは将来にわたって居住を制限するとされてきた帰還困難区域に居住を可能とする区域を設け、帰還の一助とするものだが、認知度も低く、認知している回答者の特に女性の回答が効果を感じている分野がほとんどない結果となっているのは、回答者の多くがいわき市在住で、帰還を断念されている住民が多いのではないかな。

# 福島復興支援策に関するアンケート調査 報告書（2023 年）

- **イノベーション・コースト構想**は、浜通り地域等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトであり、これにより人材育成や人の交流の拡大を目的としているが、交通インフラや廃炉対策への効果を感じている回答者が多くなっていること、男女で効果を感じている分野が異なるという結果となっているのは、施策の情報や目的が正確に伝わっていないのではないかと。

⇒一施策の情報や目的を正確に伝えるにはどのような方法があるか？

⇒イノベーション・コースト構想を実現するにはどうしたら良いか？

## 6. おわりに

アンケート調査の結果から見えてきた課題としては以下のような項目がある。

- 福島の将来に対して、若年層が定住し、安全・安心な生活基盤を持ち、新たな産業が創出されるような地域を目指すにはどうしたら良いか？
- 国の施策について、その効果を住民がもっと実感でき、安心して生活できるようにするにはどうしたらできるか？
- 避難したが帰還した人、帰還を迷っている人、移住してきた人にとって良い施策は何か？
- 原子力学会、原子力学会員としての何ができるか、役割は何か？

福島特別プロジェクトとしてこれらの課題について少しでも解決策を提案できるように活動していきたいと考えている。

# シンポジウムの開催(1)

■「福島県の現状と取り組み」2018年6月16日(土)会場コラッセふくしま 参加者約80名

■「消費者のギモン 福島県産ってどうなの？」2017年3月26日(日)会場大手町ファーストスクエアカンファレンス(港区)参加者約70名

■「福島の明日を見つめるーみんなで考える除染・帰還・復興ー」2016年7月23日(土)会場いわき産業創造館(いわき市)参加者約80名

■「福島の環境回復に向けてー5年の歩みと今後の課題ー」2016年2月13日(土)会場コラッセふくしま 参加者約80名

■「除染の進捗・放射線と健康影響」2015年8月1日(土)会場郡山商工会議所(郡山市)参加者約100名

■「農作物と放射性物質・放射線と健康影響」(日本原子力学会・日本放射化学会合同シンポジウム)2015年1月30日(土)会場いわき産業創造館(いわき市)

■「女性のためのフォーラムー低線量被ばくと健康影響についてー」2014年8月30日(土)会場コラッセふくしま 参加者約100名

■「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組みー除染の現状と低線量被ばく」2014年1月19日(日)会場コラッセふくしま 参加者約120名

# シンポジウムの開催(2)

■「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み-住民被ばくの現状と環境動態-」2013年8月25日(日)会場コラッセふくしま 参加者約120名

■「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み」2013年1月20日(日)会場コラッセふくしま 参加者約200名

■「東京電力福島第一原子力発電所事故後の取り組み」2012年6月16日(日)会場コラッセふくしま 参加者約250名

■「東京電力福島第一原子力発電所の今は？ 今後は？」2012年5月26日(日)会場コラッセふくしま 参加者約250名



## 地域交流イベント

■「富岡の環境再生を目指して」2019年7月13日(土)富岡町学びの森  
参加者32名

# 年会・大会 企画セッション

## ■2023秋「ALPS処理水海洋放出に関する経緯とその理解」

講演1「ALPS処理水の処分に関する経緯と取組について」山口雄三（エネ庁）

講演2「ALPS処理水に係る海域環境モニタリングの取組について」北村武紀（環境省）

講演3「ALPS処理水海洋放出に関連した世論の状況」藤田玲子（PJ）

## ■2023春「福島復興・再生に向けて」

講演1「福島特別プロジェクトのこれまでの活動と今後」藤田玲子（PJ）

講演2「福島県南相馬市水稻栽培試験」三倉通孝氏（東芝ESS）

講演3「福島県における環境回復と福島環境創造センターの取組」小田島正（福島県）

## ■2022秋「除去土壌等の中間貯蔵と再生利用等の進捗状況」

講演「除去土壌等の中間貯蔵と再生利用等の進捗状況」吉田勝利（環境省）

## ■2022春「福島復興・再生に向けてー福島特別プロジェクトの活動ー」

講演1「福島県南相馬市水稻栽培試験」三倉通孝（東芝ESS）

講演2「学校教育支援の活動について」八塩晶子（大林組）

講演3「国の復興支援による地域活性化」布目礼子（センター）

## ■2021秋「福島復興・再生に向けてー福島特別プロジェクトの活動ー」

講演1「福島特別プロジェクトのこれまでの活動と今後」藤田玲子(PJ)

講演2「学校教育への協力・支援活動について」八塩晶子(大林組)

講演3「国の復興支援による地域活性化について」布目礼子(原環センター)

## ■2020春「福島復興・再生に向けてー震災後9年を振り返るー」

講演1「地元と寄り添う福島特別プロジェクトの活動」藤田玲子(PJ)

講演2「福島における除染等の進捗について(2020)」小沢晴司(環境省)

講演3「福島復興に向けた長崎大学の取り組み」高村 昇(長崎大学)

## ■2017秋「新たな局面を迎えている福島の復興」

講演1「福島の現状および帰還、復興を進めるための課題と今後」藤田玲子(JST)

講演2「地元と寄り添う福島特別プロジェクトの活動」布目礼子氏(原環機構)

## ■2016秋「福島特別プロジェクトからの見解ー福島の帰還・復興を進めるためにー」

講演1「福島特別プロジェクトのこれまでの取り組み」藤田玲子(JST)

講演2「原子力事故による風評と闘う福島の農業の今・そして未来」菅野孝志(JA)

講演3「福島特別プロジェクトからの見解」飯本武志(東京大学)

# 環境再生プラザ(旧除染情報プラザ)への専門家派遣

2012年1月21日(土) オープン

2017年7月14日(金) 環境再生プラザに名称変更

土、日曜日に質問対応のため専門家を派遣

(延1000名以上派遣(2020年12月末))



## 除染や放射線に関する情報の提供

タッチパネル、大型モニター、映像や模型などを使った展示で、除染や放射線に関する最新情報をわかりやすくお伝えしています。また、みなさまが日々抱えている疑問点などを、常駐のスタッフにお尋ねいただけます。



## 専門家派遣移動展示

除染や放射線に関する専門知識や豊富な経験を持った専門家を市町村や町内会、学校などへ派遣しています。また、より多くの方に最新の情報を知っていただくため、パネルや模型などの移動展示や学校などへの出張セミナーも行っています。



## 地域とのコミュニケーション

除染や放射線に関して、地域の方々とともに学び考えるためのセミナーやワークショップの実施、除染や復興に向けた活動を紹介する企画展示、気軽にご利用いただけるサロンスペースなど、コミュニケーションの場をご提供しています。

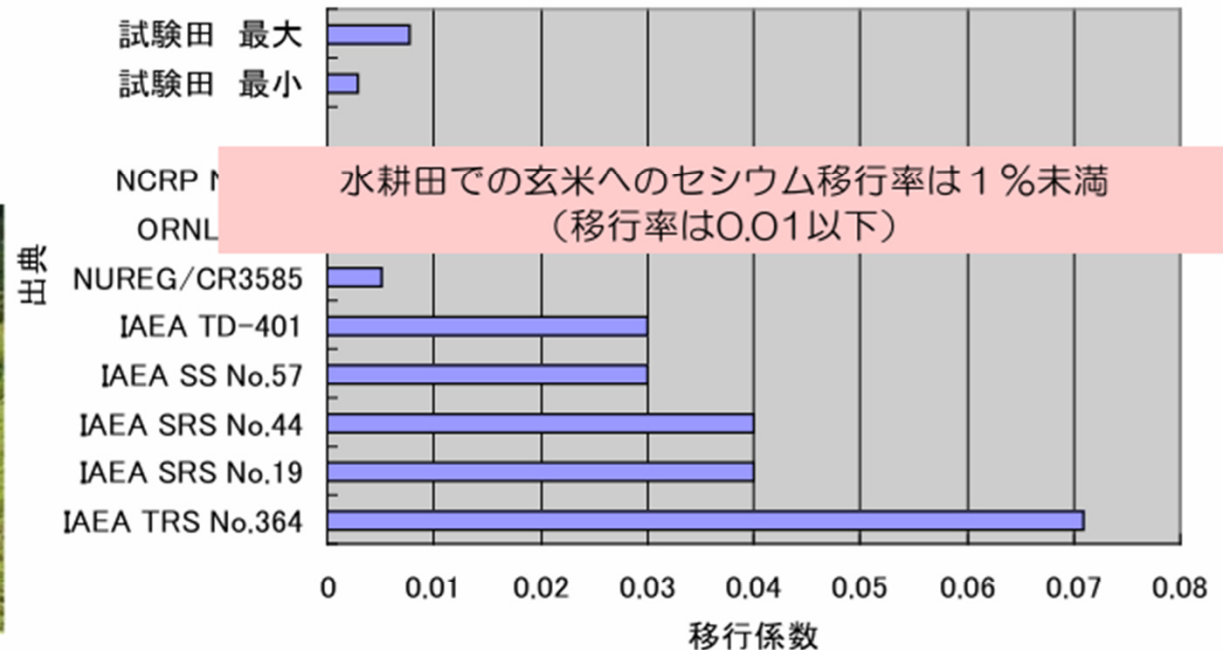


# 稲作試験の実施(2012年から)

玄米へのCsの移行率を測定



## 放射性セシウム米への移行結果



(GLOBAL2013, 第三回福島・チェルノブイリ・スリーマイルアイランド国際会議2018で報告)

# 福島県内での学校教育等への協力・支援

## ➤ 目的

福島県内の教育現場において、未来を担う次世代が震災後の復興について学ぶ（放射線/環境影響/廃棄物/廃炉等）取り組みや人材育成を協力・支援する。

## ➤ 活動状況(2020年度～)

### 1. 高校・高専

#### □ 国立福島工業高等専門学校

工学的、科学的観点から原子力技術と向き合うことができる学生の育成を支援する。

- ・集中講座形式で各学年の講義
- ・e-learning、教材作成の協力

#### □ ふたば未来学園

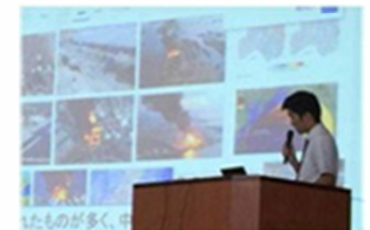
- ・未来創造探究ゼミの外部専門家として依頼により協力する。

### 2. 小・中学校

#### □ 環境再生プラザ

- ・小・中学校を中心に、同プラザが実施する放射線に関わる授業や教材作成に協力する。

1年生 原子力発電基礎  
2年生 放射線基礎  
3年生 廃炉ロボット概論廃炉と社会  
4年生 廃炉工学  
5年生 原子力事故総論  
(例:福島高専における原子力関連授業)



出典:平成30年8月28日 教育再生実行会議(高校改革WG)資料

# 福島特別プロジェクトの今後

- 環境再生プラザや市町村等からの派遣要請に継続的に対応
  - 国や県、その他組織・機関の支援的な役割へ
- 震災から13年が経過：主体的な活動からサポート的な役割へ
  - ①浜通りの再生・復興に寄り添う（協力） ②稲作試験の継続
  - ③福島県における学校教育への協力・支援
  - ④国の復興支援による地域活性化の整理と提言
- 今後も、地元の方々の関心・ニーズに応える活動を継続
  - ①帰還困難区域の再生・復興への協力：特定復興再生拠点区域外への対応も
  - ②風評被害への対応：特に処理水放出による農水産物への影響等の注視
  - ③廃炉作業への懸念の対応：住民の方々への丁寧な説明ときめ細かな対応
- 専門知や経験と地元の方々とのハブ的な役割も